希望溢れる未来の印刷

大野将貴

現代の生活の中で必要不可欠なものとなっている「印刷」という技術。正直僕はこの技術が普段の生活の中にあることがさも当たり前のように思っており、この「印刷」という技術について考えたことはありませんでした。けれどこの機会に真剣に考えてみるとそれがあるからこそ今現在の生活が成り立っていることに気づき、またその未来は想像するだけでとてもワクワクするものでした。

「未来の印刷」と一言で言われると、たくさんのアイディアがでてきます。その中でも特に僕が「こんな印刷技術がある未来であったらいいな。」と思う三つのアイディアを紹介します。

一つ目はすぐにでも実現できそうな「持ち運びが可能な印刷機」です。今、家や学校などにある印刷機は、段々と印刷するスピードやキレイさがより優れたものへと進化してい

ます。しかし、その大きさは大型でありとても持ち運ぶことはできません。周りに印刷機がないとき、「ここを印刷したい。」そう思うことは誰しもあることでしょう。そういった時、役に立つのがこの「持ち運びが可能な印刷機」です。その具体例としてこれはどうでしょうか。印刷したい文字や絵の上をその機械をスライドさせるとその読み込ませた文字や絵が印刷されている。このようなものがあれば

印刷の活躍する場がさらに広がると思います。

二つ目は機械が苦手な人やご老人の役に立つ「会話ができる印刷」です。人と印刷の技術が駆使された機械とが会話できると複雑な操作もいらなくなり、誰もが簡単に印刷を行うことができます。そしてさらに、人が機械と会話ができることによって「一人でいる時の寂しさ」というものを感じることが少なくなり、いつも笑顔でいられる人が増えるのではないかと思います。また、今、そしてこれ

から高齢化社会となります。なのでこのようにご老人のこともしっかりと視野に入れた印刷が必要になるのではないでしょうか。

最後の三つ目、3D映画、3Dテレビなどという3Dの世界が流行となっている今、僕が最も未来にこんなものがあってほしいと望む印刷の技術は、頭の中でイメージしたものを立体で印刷できる」ことです。こんなことができれば望むものが何でも手に入り、想像しただけでも毎日が楽しくてしょうがありません。

「未来の印刷」ということを考えるとそれはまさに「希望で溢れる明るい未来」となっていました。「こんなことできるはずがない。」そう言う人はたくさんいるとは思いますが、それを言い諦めてしまう。ては絶対に一歩先へと歩むことはできません。僕はいつかこんな日が来る、そう信じ常に「未来の印刷」のように明るい未来を想像しながら一歩先へ進んでいきたいと感じました。